

IV 学習指導実践事例

1 実践事例 1 <保健教育> (川口市立戸塚中学校)

保健体育科 (保健分野) 学習指導案

令和2年11月19日 (木) 第6校時 教室
第2学年2組 男子20名 女子20名
川口市立戸塚中学校 教諭 川俣 泰幸

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

2 単元について

我が国において、がんは、昭和56(1981)年より死因の第一位であり、平成27(2015)年には、年間37万人が亡くなり、生涯のうちに、約2人に1人が罹患すると言われており「がん」が重要な健康課題となっている。平成28年12月には「がん対策基本法」が改正され、がん教育に関する条文が新たに盛り込まれた。また、改正法を踏まえ策定された「第3期がん対策推進基本計画」では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。これまで学校では、健康の保持増進と生活習慣病などの予防といった視点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んできたが、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は、まだまだ不十分と言える。がんは身近な病気であるということを理解させ、がんの仕組みやがんの予防、早期発見・検診についての関心をもたせ、正しい知識を身に付けさせた上で適切な対処ができるようになることを目指す。

「健康な生活と疾病の予防」(本単元)では、人間の健康は、主体と環境が関わり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解させなければならない。また、健康と生活行動は深く関わっており、運動、食事、休養及び睡眠のそれぞれと健康との関係について理解させ、健康を保持増進するためには、調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解させる。さらに、不適切な生活習慣を若い年代から続けることによって、やせや肥満、生活習慣病を引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。本単元で扱う生活習慣病では、糖尿病、脳卒中、心臓病などを取り上げて扱い、その原因や予防について理解させる。「がんの予防」については、発生の仕組みなどの疾病概念、要因と予防、検診による早期発見について扱うこととする。

3 生徒の実態

本学級は、明るく和やかな雰囲気であり、良好な人間関係を構築できる生徒が多い。保健の授業に対する関心はおおむね高く、特に学習課題に対して自分の考えを仲間に伝えたり、グループで話し合って考えをまとめたりするような活動に積極的に取り組める生徒が多い。他教科の授業や保健分野の授業でも、知識構成型ジグソー法の手法を参考に、協働的な活動を取り入れた授業を何度か経験しており、個人で考えることに加えて、自分の意見や考えをグループ内で伝え合ったり、まとめたりすることに慣れている。しかし、一部の生徒は、仲間に自分の考えを伝えることを苦手としており、グループ活動での話し合

いに貢献できない場面も見られる。また、学力差が大きく特に知識の定着度に大きな差が見られる。

事前アンケートの結果から見られる、がんに対する生徒の実態は以下の通りである。

Q1 あなたは「がん」についてどのような印象をもっていますか？（複数回答可）

- ・なかなか治らない病気 ・怖い ・重い病気 ・一度なってしまったら治らない病気
- ・治っても再発する ・抗がん剤の副作用が強い ・ステージがある ・転移する
- ・なったら死んでしまう ・誰でも発症する可能性がある ・進行したら治らない
- ・早期に発見できれば平気 ・子どもから大人まで関係なくかかる病気 ・早期発見が大切
- ・お酒やタバコでがんになる ・治療をする上で苦しいことが沢山ある ・生活しにくい
- ・体が不自由になる ・治る確率が低い ・種類が沢山ありそう ・一度の治療では治りにくい
- ・死を待つような病気 ・異常な細胞が引き起こす病気 ・一番直すのが難しい病気

Q2 「がん」は、治療できる病気だと思いますか？

- ・思う（9人） ・思わない（2人） ・治るものと治らないものがある（28人）

Q3 将来がんを見つけるために「がん検診」を受けてみようと思いますか？

- ・思う（32人） ・思わない（7人）

Q4 がんの学習は、健康な生活を送るために重要だと思いますか。

- ・思う（39人） ・思わない（0人）

Q5 がんは誰もがかかる可能性のある病気だと思いますか。

- ・思う（32人） ・思わない（7人）

Q6 自分はがんにならないと思いますか。

- ・思う（15人） ・思わない（24人）

Q7 家族や身近な人でがんにかかった人はいますか。

- ・いる（8人） ・いない（31人）

Q8 がんは進行すると今までの生活ができなくなると思いますか。

- ・思う（38人） ・思わない（1人）

Q9 がんは日本人の死因の第2位である。

- ・正しい（32人） ・正しくない（7人）

Q10 喫煙や飲酒などをせずに規則正しい生活を送っていれば、がんになることはないと思う。

- ・思う（17人） ・思わない（22人）

Q11 がんは予防できると思いますか

- ・思う（30人） ・思わない（9人）

Q12 がんについて学んだことを身近な家族に話ろうと思う。

- ・思う（11人） ・どちらかといえばそう思う（20人） ・思わない（8人）

Q13 がんは様々な種類がありますが知っている病名を書いてください。（複数回答可）

- ・肺がん（21人） ・脳がん（2人） ・皮膚がん（2人） ・小児がん（2人） ・胃がん（5人）
- ・乳がん（15人） ・すい臓がん（2人） ・骨肉腫（1人） ・前立腺がん（1人）
- ・白血病（1人） ・肝臓がん（2人） ・大腸がん（1人） ・子宮がん（1人）
- ・心臓がん（4人）

がんの学習について、「重要だと思う」と回答している生徒が100%であり、全ての生徒が肯定的な回答をしていた。がんについての知識はおおむね正しい回答をしているものの、「日本人の死因の順位」「がんの要因」については、他の設問と比較し誤答が多かった。

82.1%の生徒が「がんはだれもがかかる病気である」と回答しているが、38.4%の生徒は「自分はがんにならない」と回答している。また、17.9%の生徒が「将来、検診を受けない」と回答している。

以上の結果から、がんに対してある程度の知識はあるものの、正しい理解には至っておらず、自分自身の生活とは無関係だと思っている生徒もいることがわかった。

4 教師の指導観

今回の学習を通して、「がん」についての正しい知識を身に付け、自分が描く将来に向けて「がん」の予防も含めた自分なりの生活習慣を確立させるなど、健康の保持増進について主体的に取り組む態度を育成していきたい。

がんは身近な病気であるにもかかわらず、多くの生徒が正しく理解できておらず、自分事として捉えられていない。また、健康である生徒が、健康の大切さを自分事として実感することは難しい。しかし、生活習慣病などは自分自身の生活と関わりが深い問題であり、その予防のためには、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることから、指導に当たっては、自分の生活を振り返らせ、生活習慣病の要因になりそうなものを生徒同士で交流する中で、予防に取り組んでいくことにつながるよう学習を展開していく。

本単元では、生徒が今後の人生の中で、「がん」の問題が自分自身や自分の身近な人にも関わりのある問題であることを知り、望ましい生活習慣を続けたり、がんの予防のために自ら行動したりすることができるようになることを目指す。そこで、学習した「がん」についての知識をアウトプットしたり、グループで話し合いをしたりすることで、学習内容を関連付け、生涯にわたって健康を保持増進していくための意識や生活習慣を身に付けることができるようにしていく。

5 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。 (知識)
- (2) 生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。	① 生活習慣病などの予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ② がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを筋道立てて伝え合ったり、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考えたことをワークシートにまとめたりしている。	① 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けての対話や、教科書や資料を調べたり、自他の生活を振り返ったりするなどの学習に自主的に取り組もうとしている。

(2) 単元の指導と評価の計画

時	学習のねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態	評価方法
1	I ねらい ・生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解することができるようにする。	①			<知・技①> (学習活動2) 調和のとれた生活と生活習慣病について理解したことを言ったり、書き出したりしている

<p>病 の 予 防 ①</p>	<p>II 学習活動 1 望ましい生活習慣について考える。 2 健康と生活習慣の関連、調和のとれた生活の必要性、生活習慣の乱れによる生活習慣病など、生活習慣が健康に及ぼす影響について説明を聞く。 3 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>			<p>内容等を【観察・ワークシート】で捉える。</p>
<p>2 生 活 習 慣 病 の 予 防 ②</p>	<p>I ねらい ・生活習慣病の予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見することができるようにする。 II 学習活動 1 前時の授業を振り返る。 2 今後実践できる生活習慣の改善について考え、発表する。 3 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>		<p>①</p>	<p>① <思・判・表①> (学習活動2) 生活習慣病の予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している状況等を【観察・ワークシート】で捉える。 <態①> (学習活動2・3) 課題の解決に向けての対話や、教科書や資料を調べたり、自他の生活を振り返ったりするなどの学習に自主的に取り組もうとしている状況等を【観察】で捉える。</p>
<p>3 が ん の 予 防 ①</p>	<p>I ねらい ・がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり、書き出したりすることができるようにする。 II 学習活動 1 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」についてそれぞれのグループに分かれ動画をみて正しい知識を学ぶ。 ・「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、それぞれの資料を読み解く。 2 自分の考えや他者の意見を伝え合い、課題についての考えを深めていく。 3 本時の学習を振り返り、次時の流れを確認する。</p>	<p>②</p>		<p><知・技②> (学習活動12) がんについて理解したことを言ったり、書き出したりしている内容等を【観察・ワークシート】で捉える。</p>

<p>4 が ん の 予 防 ② 本 時</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについて学んだことや資料から読み取れることを筋道を立てて伝え合うことで、がんについての知識を深め、「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめることができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時を振り返り、本時のめあてを知る。 2 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、それぞれ資料の説明や担当した課題から読み解いたことを伝え合い、わからなかったことは質問する。 ・ メモをもとにワークシートをまとめる。 3 がんについて学んだことをもとに「現在」及び「将来」自分にできること、「学習を終えてがんについてどんなイメージを持ったか」ワークシートにまとめる。 4 教師の話聞く。 		②	①	<p><態①> (学習活動2) がんの仕組みや予防、早期発見について、資料を結び付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組もうとしている状況等を【観察】で捉える。</p> <p><思・判・表②> (学習活動3・4) 学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめたり、がんのイメージに変容が見られたかについて考えたりしている状況等を【観察・ワークシート】で捉える。</p>
--	---	--	---	---	---

7 本時の学習と指導 (4/4)

(1) ねらい

- ・ 学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめた
り、がんのイメージに変容が見られたかについて考えたりすることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ がんの仕組みや予防、早期発見について、学んだことを筋道立てて伝え合ったり資料を結び
付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 準備 TV、パソコン、ワークシート、資料

(3) 展開

時間	学習内容・活動		指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 (5分)	1 前時の振り返り、活動の流れを確認する。 ・ 本時のめあてを知る。	全体	○前時までの学習の流れを確認する。 ○本時の目的を理解させ、学習の見通しを持たせる。 ○授業中に気持ちが辛くなってしまうようなことがあれば、遠慮なく申し出るように伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【学習課題】 がんについて学んだことをもとに、自分の生活習慣や今後の行動に生かせるようにしよう。 </div>			
展開 (40分)	2 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、資料や担当した課題から読み解いたことを伝え合い、わからなかったことは質問する。 (各3分×3) ※他者の説明を聞きながらキーワードをメモする。 ○3つの資料を結び付けて分かったことや感じたことを話し合いワークシートに記入し発表する。 (15分)	グループ	○資料を適切に活用し、学んだことが相手に伝わるように説明するよう促す。 ○グループ内での発表をしっかりと聞き、他者の意見からキーワードとなりそうなことをメモさせるようにする。 ○グループの中で積極的に意見を出し合いながら課題に対する答えを考えることが出来るように机間指導をしながら、話し合いが深まるように促していく。 ○机間指導の際、自分なりの考えをまとめている生徒をピックアップし、発表させる。 ◆がんの仕組みや予防、早期発見について、資料を結び付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 「努力を要すると判断される状況」 (C) の生徒への手立て (支援) 机間指導を行いながら、資料を振り返らせるなど、気づきを促すための声かけを行っていく。 「十分満足できると判断される状況」 (A) の生徒の具体的な姿 グループ活動で、自分の意見を積極的に発言するとともに、他の意見を取り入れ、より良い課題解決の方法を考えている。

	<p>3 がんについて学んだことをもとに「現在」及び「将来」自分にできること、「学習を終えてがんについてどんなイメージを持ったか」ワークシートにまとめ、発表する。(10分)</p>	個人	<p>○がんの学習を行う前と後で変容が見られたか、学習の成果を自ら感じられるようにする。</p> <p>◆学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめたり、がんのイメージに変容が見られたか考えたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 机間指導を行い、自分の考えがまとめられるようにキーワードを伝え学習を整理できるようにし、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣に結びつけることができるようにする。 「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 「がん」の要因は様々なものがあるが、中でも生活習慣は自分自身で改善できる予防法であること。また、誰でもがんになる可能性があるので、がん検診が大切であることを踏まえ、学習したことを基に、「現在」及び「将来」の具体的な対策についてワークシートに記入している。</p>
まとめ(5分)	4 教師の話聞く。	全体	<p>○本時のまとめを行い、がんの発生要因は、様々であることから「がんになった人」イコール「生活習慣が乱れている人」ではないことを伝える。しかしながら、予防として私たちにできることは、がんを予防するための望ましい生活習慣と早期発見・早期治療であることについて、再確認する。</p> <p>○ワークシートを回収し、まとめた内容についての補足や指導の必要な生徒には、個別に指導する。</p>

8 事後指導

本単元終了後、ゲストティーチャーを招き、「なぜ、がんについて学んだのか」「がんになったときに(がんになった身近な人に対して)どう向き合っていくか」について、講話していただく。その際、本来であれば高等学校での学習内容であるがん患者や周囲の人々の生活の質を保つことや、緩和ケアについても触れていただくことで、今回の学習をここで閉じるのではなく、生徒の将来を見据えた学習として位置付けたい。また、講話を特別活動の授業として、未来につながる学びへとつなげていく。

2 実践事例 2

<安全教育> 川越市教育委員会

令和2年度「学校安全総合支援事業」

川越市立学校防災タイムラインの作成

モデル地域：寺尾中学校地域

川越市教育委員会

モデル校：寺尾中学校、寺尾小学校、高階小学校、高階南小学校

(市立学校 小学校 32校、中学校 22校、特別支援学校 1校、高等学校 1校)

1 はじめに

川越市教育委員会では、平成28年度から、安全教育の質を高めるため、安全教育研修会を企画し、毎年、その年度に課題とするテーマを精選した上で研修会を実施してきている。令和元年度は、本事業の再委託を受け、モデル校を中心に安全教育についての研究を行った。さらに令和2年度でも、本事業の再委託を受け、主に防災教育について、アドバイザーに慶應義塾大学 准教授 大木聖子氏を招聘し、専門的な見地のもと研究を重ねた。本事例は、その中の「川越市立学校防災タイムラインの作成」についてである。

2 実践事例「川越市立学校防災タイムラインの作成」

(1) モデル地域の実態

寺尾地域は、これまで台風などの際、浸水被害が発生した地域である。過去の台風による床上浸水件数は、平成29年の台風21号で寺尾地区238件（川越市246件）、令和元年東日本台風（台風19号）で寺尾地区146件（川越市205件）であった。令和元年東日本台風（台風19号）発災時、学校が避難所になった際には、川越市全体で、避難所設営・運営に係る課題が見られた。

そこで、モデル校を寺尾地域の学校に指定し、避難所設営・運営の在り方について検討することを研究の一つとした。

(2) 川越市防災教育推進会議

① 推進会議の構成委員

- ・アドバイザー：慶應義塾大学 准教授 大木聖子氏
- ・川越市教育委員会 ・川越市防災危機管理室
- ・令和2年度本事業モデル校4校の校長 ・令和元年度本事業モデル校2校の校長

② オンライン会議（全11回）

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、本推進会議はオンライン会議にて実施した。当初は、現行の「川越市学校防災対応マニュアル」について、新型コロナウイルス感染症対策の視点も取り入れた上で見直しを図るというものであった。しかし、会議を進めていく中で、校長から、過去の被害も踏まえ、発災時に避難所設営・運営に関わるそれぞれの立場での動きが、一目でわかるものがあると活用しやすいという意見があがり、「川越市立学校防災タイムライン」を作成することになった。



③ 川越市立学校防災タイムライン（水害編・地震災害編）

川越市立学校 防災タイムライン（水害編） 《令和2年度版》

タイムラインは、水害編及び地震災害編を作成した。水害編では、内閣府が示している警戒レベルの配色を参考とすることで、危険度が一目で理解できるようにした。

川越市では、年度ごとに、防災危機管理室の指示のもと、避難所運営班が担当校へ、避難所設営・運営に係る事前確認等のため訪問している。

令和3年度の事前訪問の際は、避難所運営班と校長が打

合せをし、本タイムラインの「避難所運営班の動き」、「校長の動き」、「教職員の動き」という項目に、各校の実態に合わせ、具体的な動きを明記していく。そうすることで、本タイムラインを、各校独自のマニュアルとしていく。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・川越市立学校防災タイムラインの作成では、防災の専門家と校長、市の関係機関、市教委とで本音の意見を交えながら作成したことで、実態にあったものにすることができた。

② 課題

- ・避難所設営・運営については、地域住民との連携を、より一層図っていく必要がある。今後は、各校のタイムラインの内容について、地域住民とも共有を図ることで、各校の実態にあった対策をとっていきたい。

3 おわりに

本実践事例では、令和3年度の取組の一部である川越市立学校防災タイムラインの作成について記載したが、モデル校では、他にも防災教育の研究を行ってきた。次年度以降も、その研究については、川越市全体で継続して行っていく。

防災教育では、子どもたちにかなる状況下でも自らの命を守り抜くため、状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成していくことが重要である。また、防災教育には、特定の教科や時間があるわけではない。大切なことは、各教科に盛り込まれている防災に関わる学習内容や、事前・事後学習を含む避難訓練などを有機的に関連付け、教科等横断的に防災教育に取り組んでいくことである。そこで今後も、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において年間を通じて指導すべき内容を整理して、学校安全計画に位置付けることにより、系統的・体系的な防災教育を計画的に実施していく。また、それによる児童生徒への効果を検証分析し、結果を教育課程の改善につなげていくなど、カリキュラム・マネジメントの確立を通じて地域の特性や児童生徒の実情に応じた防災教育を推進していく。

＜安全教育＞ 草加市教育委員会

令和2年度「学校安全総合支援事業」

主体的に「自助」「共助」ができる草加っ子の育成を目指す

モデル地域：草加市谷塚中学校区

草加市教育委員会

モデル校：草加市立谷塚中学校・草加市立谷塚小学校・草加市立氷川小学校
(市立学校 小学校2校、中学校1校)

1 はじめに

モデル校区として、災害安全、防犯を含む生活安全、交通安全について、研究及び訓練等の実践を中心とした取組により、主体的に「自助」「共助」ができる草加っ子の育成を目指すことを目的に実践してきた。

本市では、「幼保小中が一貫した草加の教育」を推進しており、そこで、目指す子ども像を共有するとともに発達段階における目標を設定し、安全教育を進めている。発達段階において、それぞれ日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできようとし、発達段階に応じて、目標を設定している。

そして、災害安全、防災教育については、学校安全アドバイザーである埼玉県立大学の高橋教授のご指導をいただくことで、児童生徒、教職員が安全教育に対する知識・理解をさらに深めることができた。

2 授業実践【令和2年12月10日(木) 草加市立谷塚中学校 第2学年 特別活動】

(1) 概要

本市では、草加市町会連合会が主催する避難所運営市民防災訓練を災害時に指定避難所となる市内のすべての小・中学校で実施している。これは、児童生徒が防災訓練に参加することで、防災意識の高揚を図り、大規模災害時に避難所運営の力になるとともに、地域の一員としての自覚を養うことを目的としており、小学校6年生と中学校2年生の教育課程に位置付けて実施している。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から訓練は中止となったが、市の危機管理課と連携して作成した動画を基に授業を実施した。

(2) 系統を踏まえた指導

- ・市の危機管理課と市教育委員会で、市内の小学校5年生と中学校1年生を対象に「草加市ハザードマップ」を教材とした防災学習を実施した。授業では、自分の住む地域の特性を知るとともに、自分自身の身を守るために考え行動することの大切さを学んだ。
- ・教材として活用する「草加市ハザードマップ」は市から各家庭にも配布されており、保護者とともに確認し、危機意識の共有を図った。



(3) 授業実践

- ・自分の住む地域の特性や、いざという時にどのように行動すべきかを知り、災害が発生した場合に備え、自分自身の身を守るために考えて行動することについて学習した。
- ・避難所の仕組みを知り、草加市の避難所について動画をもとに学習した。
- ・グループ活動では「避難所で中学生に求められる役割」について考え、中学生は守られる立場から守る立場になることを学習した。
- ・振り返りでは、「避難所の設営の仕方が分かったので、町内の人と一緒に運営に協力したい」などの感想を生徒はもつことができた。



(4) 事後指導

- ・保護者と避難場所について確認した。また、市広報課と連携し、授業実践を広報「そうか」に掲載することでその取組を周知した。

できごとまちかど 11/2月

小・中学校で防災学習と地域の避難所運営訓練

避難所運営市民防災訓練は、町会・自治会の避難所運営委員が中心となり「自分たちの地域は、自分たちの手で守る」をスローガンに、平成29年度から草加市町会連合会が主催し、市内33カ所の指定避難所で実施されてきました。

令和2年度も市内全小・中学校のサタデースクールと連携した避難所運営市民防災訓練を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、今回は、各校の小学6年生と中学2年生のクラスにおいて「草加の災害における避難所について考える」と題して、災害時に自分たちに何ができるかを学ぶ防災学習を実施することになりました。小学生ではまず児童たちが「避難所を知る」ことを中心に学び、中学生では、地域社会の一員として自分たちができる役割を考え、行動に移すことの大切さを学んでいます。

また、各地域でも災害に対する訓練は継続的に行う必要があるとの認識のもと、各避難所単位で新型コロナウイルス感染症対策を講じた避難所開設訓練なども行われています。

▲11/7 瀬崎小学校の防災学習
児童からは「防災訓練に参加したい」「避難所では自分のできることを全力で取り組む」などの意見が出されました。

▲12/10 谷塚中学校の防災学習
生徒からは「町会の人と一緒に避難所運営に協力したい」「自分達が行動しなければならぬ」などの意見が出されました。

草加市の人口 令和2年12月1日現在 25万203人 (男12万6611人・女12万3592人) / 前月比9人減/世帯数11万9941世帯

3 成果と課題

(1) 成果

- ・各学年の発達段階に応じた指導を行うことで、児童生徒の行動や意識の変容が見られた。
- ・教職員においては、具体的なイメージがもてる指導案や動画の提示、研修会を行うことで、これまで気付けなかったことにも気付けるようになった。

(2) 課題

- ・本事業の研究成果を市内全校に広め、市全体の安全教育の更なる充実を図る必要がある。
- ・児童生徒だけでなく、家庭における防災・安全意識も高められるよう、児童生徒が家庭に持ち帰って話題にできる授業づくりをする必要がある。

3 おわりに

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から体験的な学習を実施することが困難であった。しかし、これまで以上に関係他課と協力し代替案を実施することで、新たな取組を行うことができた。そして、各学年の発達段階に応じた指導を行うことで、子どもたちの行動や意識の変容が見られた。今後も系統的・体系的な安全教育を計画的に実施していき、地域の特性や児童生徒の実態に応じた安全教育を推進していき、モデル校区の取組を共有していきたい。

＜安全教育＞ 本庄市教育委員会

令和2年度「学校安全総合支援事業」

交通安全教育を中心とした「自らの命を守ろうと主体的に行動する態度」の育成

モデル地域：本庄市立本庄東小学校地区

本庄市教育委員会

モデル校：本庄市立本庄東小学校

1 はじめに

本庄市は、江戸時代の盲目の国学者、塙保己一誕生の地であり、保己一の残した言葉から、本市教育大綱の基本理念を「世のため、後のための教育」としている。場所は埼玉県北西部の県境に位置し、JR高崎線、八高線、上越新幹線、関越自動車道本庄児玉ICや、国道17号、254号、462号などの主要道が縦横に走り、東京と上信越方面を結ぶ交通の要衝となっている。

本庄市内の交通事故は減少傾向にあるものの、令和元年における人口千人あたりの人身事故発生件数は4.18と高い水準にあり、交通事故防止は市の重要な課題となっている。モデル校に指定した本庄市立本庄東小学校は、平成26年度より交通安全子供自転車埼玉県大会に出場している。平成30年度には埼玉県大会優勝、全国大会出場、令和元年度には全国大会優勝を果たした。今回の事業では、本庄東小学校を中心とした取組を通して、市内小中学校児童生徒の交通安全意識を高め、「自らの命を守ろうと主体的に行動する態度」の育成を目的として取り組んだ。

2 実践事例

(1) 交通安全子供自転車大会の取組を通じた交通安全意識の高揚

交通安全子供自転車大会は小学生が自転車で安全に走行するための知識と技能を身に付け、その実践を習慣とすることによって交通事故防止を図ることを目的とし、毎年開催されている。大会での競技は、交通に関する安全知識を問われる学科試験と、基本的なルールや技術力を問われる安全走行テスト、高度な技術を要求される技能走行テストがある。

①これまでの取組

- ・令和元年度 全国大会団体優勝、個人優勝、文部科学大臣賞（学科テストと安全走行テストが優秀な学校に贈られる）を受賞し、大会史上初の3冠達成となり、学校全体の交通安全意識の高揚につなげた。
- ・本庄市交通安全運動出陣式に参加し、自転車模範走行、交通安全クイズ、交通事故防止メッセージの発信など、校外においても交通安全意識を高める活動を行った。

②今年度の取組

今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、交通安全子供自転車埼玉県大会及び全国大会が中止となったが、代表児童は自転車の練習、学科試験の学習に継続して取り組んだ。9月には、全国大会出場経験のある群馬県、栃木県、上里町の小学校と交流を行い、自転車運転技能や安全知識の向上を図った。



(2) 授業実践【令和3年1月7日（木）本庄市立本庄東小学校 第4学年 特別活動】

①ねらい

これまでの自転車の乗り方を振り返るとともに、正しい交通ルールや安全な自転車の乗り方を知り、自ら進んで交通事故を防ぐための安全な乗り方を実践することができるようにする。

②授業の内容

- ・導入では、市町村別交通事故発生率や警察署別交通死亡事故ゼロ更新日数などの資料を活用し、本市の交通事故発生状況を知ることにより、児童の関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるようにした。
- ・映像を使いながら交通安全クイズに取り組み、歩道は歩行者優先で車道寄りを徐行すること、安全ルールを守ること、ヘルメットは着用することなど、「自転車安全利用五則」についての理解を深めた。
- ・これまでの自転車の乗り方について振り返り、交通事故を防ぐためにこれから気を付けることについて自己決定する時間をとった。児童は、本時に学んだ内容をもとに、「ヘルメットを着用すること」「並進をしないこと」「夜間はライトをつけること」など、自己の課題を解決するために具体的な行動目標を設定することができた。
- ・終末に、ゲストティーチャーとして招聘した埼玉県学校安全アドバイザーの伊藤智章氏（埼玉県警察本部交通総務課）のお話を聴いた。
- ・振り返りでは以下のような記述が見られた。児童は本時の学習内容を捉え直すとともに、日常生活における交通安全への意識を高めることができた。
「今日の学習で、歩道は歩行者を優先にすることが分かりました。これからは、事故に気を付けて自転車に乗ってみたいです。」
「正しい自転車の乗り方が分かりました。自転車安全利用五則を他の人にも教えてあげたいです。そして、本庄市の事故を減らしたいです。」



③事後指導

- ・自転車大会の練習に取り組んでいる児童が、授業で学んだことや感じたことなどについて校内放送により発表を行い、全校児童に対する交通安全への意識を高めた。

3 おわりに

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動等を制限するなどの対応を余儀なくされたため、十分な取組を進めることが難しかった。このような状況の中でも、交通安全に関する授業の実施や資料の活用、交通安全教室を通して、交通ルールやマナーに関する正しい知識を身に付けることができ、児童生徒が自らの命や安全を守ろうと主体的に行動しようとする態度が育った。

市内の交通事故発生率は依然として高いため、今後も継続して児童生徒の交通安全意識を高め、交通事故防止を図っていく。また、モデル校の取組を他校でも実践できるよう、市立小中の学校安全主任等を対象とした研修を実施したい。

3 実践事例3 <食に関する指導> (深谷市立常盤小学校)

令和2年度 埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会
 研究主題 生きる力と夢見る力をはぐくむ食に関する指導の研究
 ～東都大・JAと連携した取組～
 深谷市教育委員会【実践校 深谷市立常盤小学校】

第6学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

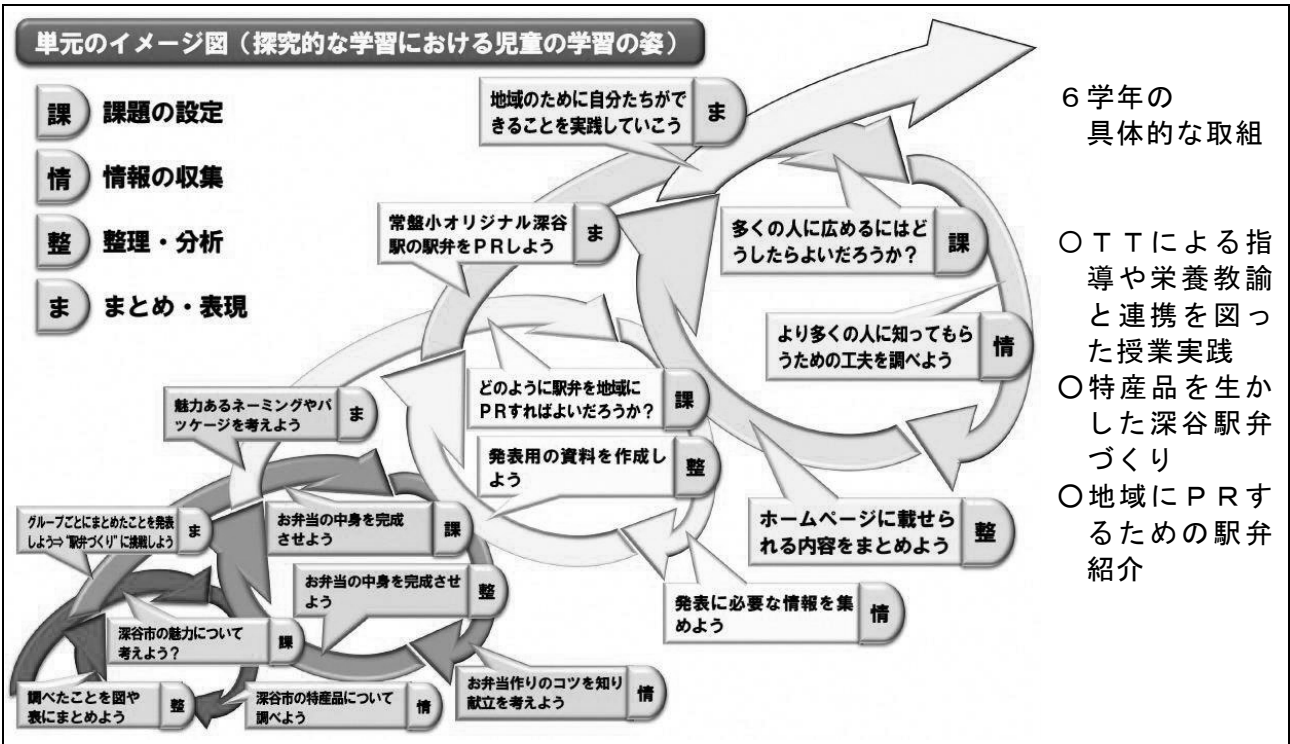
指導者 教諭 渡辺 光弥 (T1)
 栄養教諭 加藤 照美 (T2)

1 単元名 「深谷駅の駅弁をつくろう！」～地産地消を意識した魅力のある献立づくり～

2 単元目標

深谷市の特産品を調べたり、身近なお弁当に目を向けたりする活動を通して、生産者の思いや地域のよさに気づき、それらを発信するためのPR活動に取り組むことで地域への愛着を深め、これまでの食生活を見直し、自らの生活に生かそうとする。

3 単元の指導計画と評価計画



6 学年の
具体的な取組

- T T による指導や栄養教諭と連携を図った授業実践
- 特産品を生かした深谷駅弁づくり
- 地域にPRするための駅弁紹介

指導計画	評価計画
◎学習課題 ・学習活動 ○本時のまとめ	◆各時間終了時の児童の姿 ○評価 (評価方法)
1 時間目 【課題の設定】 ◎深谷市の魅力について考えよう。 ・図や言葉でまとめ、課題について考える。 ○深谷市の魅力を伝えるために自分たちにはできることは何があるのかな。	◆深谷市の良さを想起し、その魅力についてしろうとしていく。 ○ <u>態</u> ① (学習カード)
2 時間目 【情報の収集】 ◎深谷市の特産品について調べよう。 ・インターネットや地域の方への聞きとり ○深谷市にはたくさんの特産品がある。	◆進んで調査し、深谷市の特産品について知ろうとしていく。 ○ <u>態</u> ① (学習カード)

<p>3時間目【整理・分析】</p> <p>◎調べてきたことを図や言葉にまとめよう。</p> <p>・思考ツールを使って調べた情報を整理する。</p> <p>○思考ツールを使うと調べてきたことが分かりやすく整理できる。</p>	<p>◆思考ツールを使って自分たちが調べてきたことをグループでまとめている。</p> <p>○思・判・表③（学習カード）</p>
<p>4時間目【まとめ・表現】</p> <p>◎グループごとにまとめたことを発表しよう。</p> <p>・調べた特産品や地域の人の願いについて共有する。</p> <p>○深谷市にはたくさんの特産品があり、それぞれに地域の人の願いがこめられている。</p>	<p>◆特産品や地域の人の願いなどについて発表し、自分たちの手で深谷市をPRする方法を発表することができる。</p> <p>○知・技④（学習カード）</p>
<p>5時間目【課題の設定】</p> <p>◎お弁当の中身について考えよう。</p> <p>・お弁当と駅弁とのちがいや特徴を考える。</p> <p>○地域の魅力が伝わるような駅弁になっている。</p>	<p>◆駅弁や家の人が作っているお弁当の中身について関心をもつことができる。</p> <p>○態②（行動・学習カード）</p>
<p>6時間目【情報の収集】</p> <p>◎お弁当づくりのコツを学習しよう。</p> <p>・5つの項目について知る。</p> <p>○お弁当作りには欠かせない要素がある。</p>	<p>◆弁当づくりに必要な5つの項目について知ることができる。</p> <p>○知・技①（発表）</p>
<p>7時間目【情報の収集】</p> <p>◎深谷駅弁にはどのような主食・主菜を入れたらよいのかな。</p> <p>・特産品から選択したり栄養素について考えたりする。</p> <p>○深谷の特産品を入れることで深谷ならではの駅弁になる。</p>	<p>◆深谷の特産品にふれ、駅弁にふさわしい献立について意欲的に考えている。</p> <p>○態③（行動・学習カード）</p>
<p>8時間目【情報の収集】（本時）</p> <p>◎深谷駅弁にはどのような副菜を入れたらよいだろうか。</p> <p>・深谷の地場野菜を入れたおかずを選択する。</p> <p>○副菜に地場野菜を取り入れることで深谷ならではのオリジナル駅弁になる。</p>	<p>◆地場野菜に気付き、深谷駅弁の副菜を考えることができる。献立づくりのポイントをふまえ、紹介したいおかずを選択している。</p> <p>○思・判・表②（学習カード・発表）</p>
<p>9時間目【整理・分析】</p> <p>◎お弁当の中身を完成させよう。</p> <p>・足りない栄養素について考え、整理する。</p> <p>○足りない部分を補うことでより魅力的になる。</p>	<p>◆アイデアを生かして見栄えや色合いなどの足りない部分を考えている。</p> <p>○思・判・表③（学習カード・発表）</p>
<p>10時間目【まとめ・表現】</p> <p>◎魅力あるパッケージやネーミングを考えよう。</p> <p>・自分たちが伝えたい思いや願いを入れる。</p> <p>○自分たちが考えた深谷駅弁が完成できた。</p>	<p>◆深谷オリジナルの駅弁として商品を完成させることができる。</p> <p>○思・判・表①（学習カード）</p>

※11～22時間目 省略 単元のイメージ図参照

4 本時の指導計画（本時8／22）

（1）目標

深谷市の魅力を伝えるため、地場野菜を生かした駅弁の副菜を考えることができる。





【食育の視点】

*自分たちの住む県の産物・食文化や歴史等を理解し尊重する〈食文化〉

*食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々に感謝する〈感謝の心〉

（2）展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）	準備	時間
1 栄養の歌を歌う。	・赤、黄、緑の栄養素に関わる歌を歌うことで学習意欲を喚起する。	音楽 CD	5分
2 前時の振り返りをする。	・ワークシートや書画カメラで現時点でのお弁当の中身について振り返る。 ・食品分類表をふまえ、不足している栄養素にもふれる。	ワークシート① 掲示資料	
3 本時の課題を知る。	深谷駅弁にはどのような副菜を入れたらよいだろうか。		
4 給食の献立を想起する。	・最近食べた給食の献立を振り返る。 ・既習内容の地場野菜（伝統野菜ふくむ）や旬の野菜にも目を向けさせる。	おかず カード	5分

<p>5 栄養教諭の話聞く。</p> 	<p>常盤小の給食では地元の野菜をなるべく多く使っています。地産地消といいます。地域の美味しい旬の食材を使うことは安心・安全に食べることや食文化を守ることにつながります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の話聞き主活動への意欲を高めさせる。 *自分たちの住む県の産物・食文化や歴史等を理解し尊重する〈食文化〉 	<p>掲示資料 野菜カード ワークシート②</p>	
<p>6 自分で副菜にするものを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で副菜を1品選択させ、その理由を書く。 <p>～決め手のポイント～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・味 ・バランス（栄養） ・色どり ・特産品 ・おすすめ ・冷めてもおいしい <ul style="list-style-type: none"> ・おかずの参考用カードをペアごとに配布する。 ・提示しているおかずに食材を付け足して考えても良いことにする。 ・カードにないおかずを考えることもできる。 ・選んだおかずにはどんな栄養素が含まれているのか食品分類表を確認させる。 	<p>参考用カード 食品分類表 おかずカード</p>	<p>10分</p>
<p>7 グループ内で意見を交流し合う。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた副菜を紹介しあう。 ・交流時には、相手の意見を尊重させる。 ・友達の良い考えはワークシートに書き込み、多くの考えにふれることで理解を深める。 ・おかずカードで操作的な活動を通して考えの見える化を図る。 	<p>発表用ボード 五大栄養素の掲示物</p>	<p>15分</p>
<p>8 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の班の考えを抽出し、発表させる。 ・班で決まったグッドデザインを黒板に掲示することでより良い考えにふれさせる。 		<p>5分</p>
<p>9 本時のまとめをする。</p>	<p style="text-align: center;">地場野菜を生かすことで深谷ならではの駅弁になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の考えをワークシートで振り返る。 ○自分で考えたり友達の意見を聞いたりし、駅弁の副菜について考えている。 【思考・判断・表現】（観察・ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> ・実際に駅弁に入れる副菜は後日投票によって決まることを伝える。 ・駅弁の足りない部分やどんな視点で考えれば良いかについてふれておく。 *食物を大切にし、食物の生産等に関わる人々に感謝する〈感謝の心〉 		<p>5分</p>
<p>10 次時について知る。</p>			

(3) 板書計画 省略